

この貴重な伝統文化を  
継承していきたい  
そんな思いを集結させた

## 播州歌舞伎 ファンクラブ

平成13(2001)年。中町生  
活創造大学修了生が、播  
州歌舞伎ファンクラブを結  
成し、翌年には、設立総会が行われ  
ました。

歌舞伎の好きな人、自分が舞台に  
立ってみたい人、浄瑠璃や三味線、  
太鼓を習ってみたい人、裏方スタッフ  
として縁の下の力持ちになりたい人、  
情報が定期的にはほしい人、激励を込  
めて会員になってみようという人など、  
さまざまなきっかけから参加した会員  
たちでファンクラブは成り立っています。

嵐獅山一座結成70周年記念公  
演の舞台セッティングも、ファンクラブ  
のスタッフで行いました。会員になっ  
た動機や理由はいろいろですが、貴  
重な伝統文化を継承していきたいと  
いう気持ちはみんな同じです。



**続** 々とベルデイホールに  
つめかける観客たち。  
昔から一座を見守ってき  
たおじいちゃんおばあちゃんもい  
れば、目を輝かせて会場へと走る  
子どもたちもいます。そのこ  
ろ舞台裏では、歌舞伎役者たち  
が入念に顔をつくりあげ、鏡と  
真剣な表情で向き合っています。  
さあいよいよ舞台のはじまり。

口上で客席は緊張感に包まれ、  
あでやかな舞台の幕があきます。  
細やかさと大胆さをあわせ持  
つ動きで魅了し、紙吹雪を散ら  
したり、スモークをたいたりと  
演出はさまざま。あつという間  
に終演に近づきます。  
終演後のあいさつは、観客た  
ちの拍手と笑い声にあふれ、播  
州歌舞伎を支えてきた役者た  
ちの人柄がにじみ出る光景に  
出会えます。最後は三本締め  
を観客とともに行って終わります。

舞台を見ることで  
播州歌舞伎がずっと愛されてきた理由を  
垣間見ることができる



客席との一体感は、播州歌舞伎ならではの特徵

## 嵐獅山一座

中央歌舞伎をにらみながら観客に受け入れられる芸だけを追求した  
地方歌舞伎の真髄を現在に伝える最後の一座

## 結成七十周年記念公演 (平成二十四年八月五日)



ばんしゅうかぶぎ ● 夢の結晶 心の伝承



中央公民館播州歌舞伎クラブ



北小学校播州歌舞伎クラブ



三味線教室

誇りある歴史と伝統に  
新しい光が射した  
よりよい形で受け継がれるように



# 歌舞伎の新しい潮流

**伝** 統文化を受け継いでいくことは難しく、最後の地歌舞伎である播州歌舞伎を伝えていくことは、わたしたちに課せられた大きな課題です。

そのような中で、中町では、出雲の阿国から見ると四百年、高室芝居から数えても三百年を越える歴史と伝統を誇る播州歌舞伎に、新しい流れが生まれてきています。

嵐獅山一座の指導を受けた中町北小学校播州歌舞伎クラブの子どもたちや、同校の卒業生を中心に結成された中央公民館播州歌舞伎クラブ員らが熱心に心と技を受け継ぎ、平成十六年一月には東京のNHKホールで催された「全国ふるさと歌舞伎フェスティバル」（文化庁など主催）に出演するなど町内のみならず各地のイベントに招かれ舞台上に立っています。また、見る側、支える側にも

新潮流があらわれ、播州歌舞伎ファンクラブを中心に、歌舞伎愛好者の輪はどんどん広がっています。

このように、まちの財産ともいえる播州歌舞伎を、後世へ伝えていくという気運は高まりつつあります。伝統をそのまま受け継ぎながら、そこに新たなエッセンスを加えて、より多くの人々に受け入れられる播州歌舞伎になってきています。



義経千本桜 吉野山道行きの場は、忠臣蔵と並んで歌舞伎の名作とされています。時代に翻弄された源義経を主人公としています。史実とは異なる劇作品として生まれ変わらせています。肉親の愛を求め続けた義経のイメージを強調するように、登場人物を新たに加えるなどしています。

そして、播州歌舞伎の「吉野山道行きの場」は、中央歌舞伎の特徴を上手に取り入れながら、地歌舞伎の魅力も十分に引きだしている作品です。見せ場も多く、観客にアピールする道化、藤太の同じ行動の繰り返しが、狐六法などは、客席も引き込まれる名場面となっています。

物語のあらすじを知らなくても十分に楽しめる作品となっていますが、より深く入り込みたい

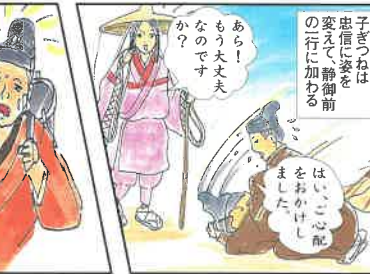
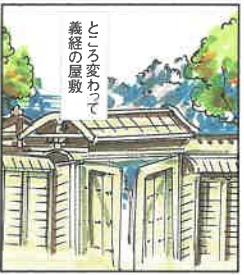
より細やかな役者の動きにまで注目したいという人も多いことでしょう。マンガ・義経千本桜を読んで、ストーリーを予習しておけば、この舞台がもっとおもしろくなるはずです。

もう二歩中へ①【マンガ】

# 義経千本桜

## 吉野山道行きの場

歌舞伎の吉野山道行きの場は、源氏の名をあげた義経が官位を賜【たまわ】ったことが兄頼朝の意に合わず、追討される物語です。静御前の鼓【つづみ】を慕ってあらわれた狐の化身・忠信の神通力によって難を逃れた義経は、静御前と初音【はつね】の鼓を守りながら、平泉へと落ちのびています。



慶長八(一六〇三)年、京都四条河原で出雲の阿国が「念仏踊り」を踊ったのが、歌舞伎のはじまりだとされています。

その後、江戸に市川団十郎、大坂には坂田藤十郎などの名優が出て、歌舞伎は完成しました。

このように京都ではじまった歌舞伎が、江戸、大坂へとたどりつき発達した中央歌舞伎とは別に、旅役者によって全国に広まったのが地方歌舞伎、つまり播州歌舞伎のような地歌舞伎です。

播州歌舞伎のはじまりは、加西市北条にあった「高室芝居」です。寛文八(一六六八)年、上方の歌舞伎役者が、播磨路で興行したことがきっかけとされています。庶民の絶大な支持を受け、「文化・文政」「幕末」「明治」に三度の隆盛を迎えましたが、昭和十二年にすべての座が解散し、高室芝居の火は消えました。

しかし、高室芝居の役者たちは、戦後復興した座へ加わっていき、中町の嵐獅山一座にも、嵐源之助などが次々に加わりました。これが新しい播州歌舞伎のはじまりです。

こうして中町の嵐獅山一座に播州歌舞伎確立の息吹が芽生えましたが、この小さな灯火を育て、支え続けたのは、松本源吉さんでした。なによりも芝居が好きだった源吉さんは、店の儲けをすべて芝居につき込むような人で、「松の家」という興行社をつくって、いろいろな演芸を呼んでくるようになりしました。昭和十年、源吉さんは、松本家の養子として徳治さん(二代目嵐獅山)を迎えました。座長として苦勞していた徳治さんを支え続け

た源吉さんも、昭和十二年、高室芝居が消滅したといわれるその年に享年六十五歳で、この世を去りました。彼こそが、播州歌舞伎をこの地に残した立役者でした。

源吉さん亡き後、「松の家」を継ぐことになった徳治さんは、自分や家族よりも、客と役者を大切にした源吉さんの性分も受け継ぎました。戦時色が強くなり、芝居どころではなくなっていた時代の中で、「松の家」には次々と演芸を呼んでこられたのは、こうだった徳治さんの性分があったからかもしれません。

このよつりに中町にやってくる、どつしりと腰を落ち着けた徳治さんは、兵庫の農村歌舞伎を播州歌舞伎としてつくりあげました。若いころは各地を渡り歩いてきたため、都会仕込みの芸風と、高室芝居のしたたかさが備わっていたのだといわれています。昭和五十九年、徳治さんは享年八十八歳で、二人の子息に嵐獅山一座を託して亡くなりました。

現在は、息子たちである嵐獅山氏・中村和歌若氏が、嵐獅山一座の中心役者として舞台に立ち、客席をわかせています。北小学校と中央公民館の播州歌舞伎クラブや、生活創造大学修了生による播州歌舞伎ファンクラブなどが発足し、まち全体でこの伝統文化を支えています。

結成七十周年を迎えた嵐獅山一座。一座が伝える播州歌舞伎は、このような先達の歴史があつて、この地に残っているのです。

**【特集】** なぜこの地に播州歌舞伎がやってきて、中町に残ったのか。それは、伝えた人、そして、それを受け継いだ人がいたから。

# 播州歌舞伎 三二歴史



昭和48年、嵐獅山一座は、国立劇場に招かれ、それ以降、播州歌舞伎の名は広く知られるようになります。

